

(第14回) 下町散策 5月11日

(谷中・根岸界隈)

初夏の行事、下町散策、回を重ねて14回目の今年は、好天の中、谷中・根岸界隈を歩きました。この地区の特徴・魅力は全国でも有数の寺町である事と昭和の香りの残る独特の雰囲気だと思いました。以下ご報告です。

幸い好天に恵まれた5月11日午前10時、29名の参加者が日暮里駅に集合、3班に分かれ、東京シティガイドクラブのガイドさん3名と共に出発しました。

まずは昭和の香り豊かな“初音小路”、戦後間もなく出来たとされる長させいぜい30メートル程の狭い路地の両側に10数件の飲み屋さんが軒を連ねており、見上げると半透明の樹脂板と木材で簡単に組まれた屋根があり、当時の雰囲気そのままの佇まいでした。

小説五重塔の作者幸田露伴の邸跡を訪ねた後、これまた戦後間もなく作られたという“谷中銀座商店街”に向かいました。この商店街に入る前に30数段下の階段があります。なんの変哲もない階段ですが、この階段から見える夕焼けが素晴らしいと言う事で“夕焼けだんだん”と名付けられると一躍人気スポットに変身です。扨て、この商店街狭い間口の店が両側に並んでおり、参加者の幾人かは名物のコロケ、ミンチカツを頬張り乍ら暫しの時間を過ごしました。

【夕焼けだんだんから谷中銀座を眺める】



その後、岡倉天心の設立した日本美術院と居宅跡に作られた岡倉天心記念公園を訪れた後、観音寺の“築地塀(ついじべい)”を見学しました。ここからが寺町谷中の

見どころです。この塀は瓦と泥を交互に積み重ねた塀に屋根瓦を葺いた重厚感豊かな作りで江戸時代武家屋敷や寺院塀に使われたと言います。

【築地塀(ついじべい)】



次に訪れたのは“全生庵”これは江戸城無血開城に重要な役割を果たした山岡鉄舟が建立した寺で自身及び落語家三遊亭円朝の墓所があります。更にそぞろ歩き、谷中霊園に向かいました。

その一角に“天王寺五重塔跡”があります。この塔は江戸時代一八世紀後半に建立された高さ38メートル強の当時関東で最も高い塔であったと言います。前述の幸田露伴は自邸からこの五重の塔を眺め、これをモデルにして小説“五重塔”を著したそうです。

大震災、東京空襲を潜り抜けこの地域のシンボリック建造物であったこの塔は大変残念乍ら昭和32年放火により焼失、焼け跡から男女の遺体が発見され不倫の精算の為の無理心中であった事が判明したと言う事です。

この地区は徳川最後の将軍慶喜と正室の墓所を始め各界の著名人の墓所が多数あります。鈴木喜三郎、鳩山一郎、渋沢栄一、ニコライカサートキン(日本正教会創設)横山大観、長谷川一夫、森繁久彌、等々枚挙にいとまがありません。

谷中霊園を出て、谷中から根岸地区へ移動、双葉山、石橋湛山の墓所のある“善性寺”を訪ねたあと、昼食の

場所”笹乃雪“に到着、約3時間、4キロ程の行程を全員無事完歩です。

笹乃雪は創業320年の豆腐料理の老舗、好天下での散策のあととあって、喉の渇きを潤すお酒も進み、いつ

もの事ながら賑やかで和やかな昼食会でした、最後のデザート豆腐のアイスクリーム(結構おいしい!)で締め、1年後の再会を楽しみにお開きとしました。

(色川 史郎・記)



以下余白